

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第三小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。 <small>(※夏季休業期間の変更に伴う教育課程編成の工夫を含む)</small>	A	HPの定期的な更新、tetoruでの情報配信、11月の土曜参観を含めた1週間の学校公開・運動会での無制限参観等の取り組みが評価され、保護者の最高評価をいただいた項目となった。	A	学校長を中心に、教頭先生から学年主任の先生へと指示がしっかりした上で、個人の先生方の意見も組み入れながら一致団結して学校運営を行っている。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 <small>(※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)</small>	A	計画的に避難訓練を実施し、「自分の命は自分で守る」児童の危機管理能力の育成を図ってきた。地域での不審者情報等の配信を随時行い、児童の安全確保に務めてきた。事故を未然に防ぐため、毎月10日の全職員による安全点検を行い、補修改善を行ってきた。	A	災害に備え、避難訓練の実施や学校危機管理マニュアルをHPのトップページで公開している。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	教務主任を中心に、週1回のステップアップタイムを学校の取組とした。5・6年の教科担任制度の導入、4年算数科におけるPJ教員の配置で基礎学力を伸ばす授業を展開してきた。全国学力・学習状況調査では全国比で国語+5.3、算数+5.6と成果を上げた。	A	令和6年度全国学力・学習状況調査の結果から、評価できる成果が表れている。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	学力向上推進委員長を中心に、児童の実態を明らかにし策を講じるため、本校独自の学力テスト(三小学力テスト)を作成し、1年を除く全学年で実施した。全学調・県学調・三小学力テストの結果を各学年で分析し、課題解決のためのを練り、授業やステップアップタイムで学力を向上させてきた。後期の三小学力テストでは全クラスで向上が図られ、成果を上げた。	A	授業を見学した際に、先生の創意工夫をした指導を見ることができて感動した。児童も集中していたので、着実に見についている。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	毎月の生徒指導部会で各学年の報告と今後の指導や支援を話し合い、実践してきた。規律ある態度の育成の調査では、12項目×5学年=60項目の内55項目で市目標の80%を達成した。中でも、時間を守る、場を清める点で本年度も成果を上げることができた。	A	出会う子みんな素直で良い子と思います。集団になったときのトラブルや仲間はずれがないように願っている。しっかりとした挨拶を行ってくれる児童が多いので、清々しい気持ちになれる。指導がよいと感じる。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	A	児童会を中心としたあいさつ週間の毎学期の取組、生徒指導主任を中心としたくつびた(かかと揃え)・なかよし宣言等の取組を行ってきた。各学級で意欲の継続・促進を図るために工夫を加えながら、また振り返る時間を設定し、基本的な生活習慣の確立を図ってきた。	A	下校時にお友達と楽しんで帰るのは素晴らしいが、当然走って道路に飛び出したり、途中の販売機をいじったり、いたずらしたりは注意した方がよい。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	運動の得意な児童の指標であるA+B+Cの割合を69.8%から71.6%と上昇させた。(春実施の調査であったため第1学年で55.8%の達成という結果が大きく上昇できない要因となった。)研究の取り組みを継続し、運動の日常化を図るようにしていくことがこれからの課題である。	A	基本的には、動的な遊び、静的な遊びの好き嫌いによると思いますが、今までのようにお昼休みの利用を工夫して欲しい。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	A	朝霞市教育委員会委嘱研究発表会に向け、全学年の研究授業の実施、授業分析・小グループでの討論・指導者の招聘で体育授業改善に努めてきた。体育の宿題や外遊びの奨励、体育授業の工夫改善で運動好きな児童の育成に励んできた。	A	先生方で団結して、校内研修を通して指導技術を学んだ。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	コマ体験、社会福祉協議会、農協、税務署等1年から6年に至るまで様々な年齢・職種の方にご指導いただき、児童の意欲化を図ってきた。五中見学、保育園との交流等、子ども同士の交流も行ってきた。PTAの方々にも多大なご支援を頂き児童を健全育成してきた。	A	学校は努力していると思います。各家庭の受け止めの温度差がある。連携については、一部の保護者の方の力が大きい。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	教育相談主任を中心に、保護者と担任との話し合いができるように教育相談日を設定したり、県スクールカウンセラーとの面談を積極的に呼びかけたりして、児童理解に努めてきた。五中校区さわやか相談室、きこえとことばの教室、通級指導教室、子ども相談室とも連携しながら教育相談にあたってきた。	A	児童のいじめに対しても、市役所・教育委員会、場合によっては警察と連携して欲しい。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満